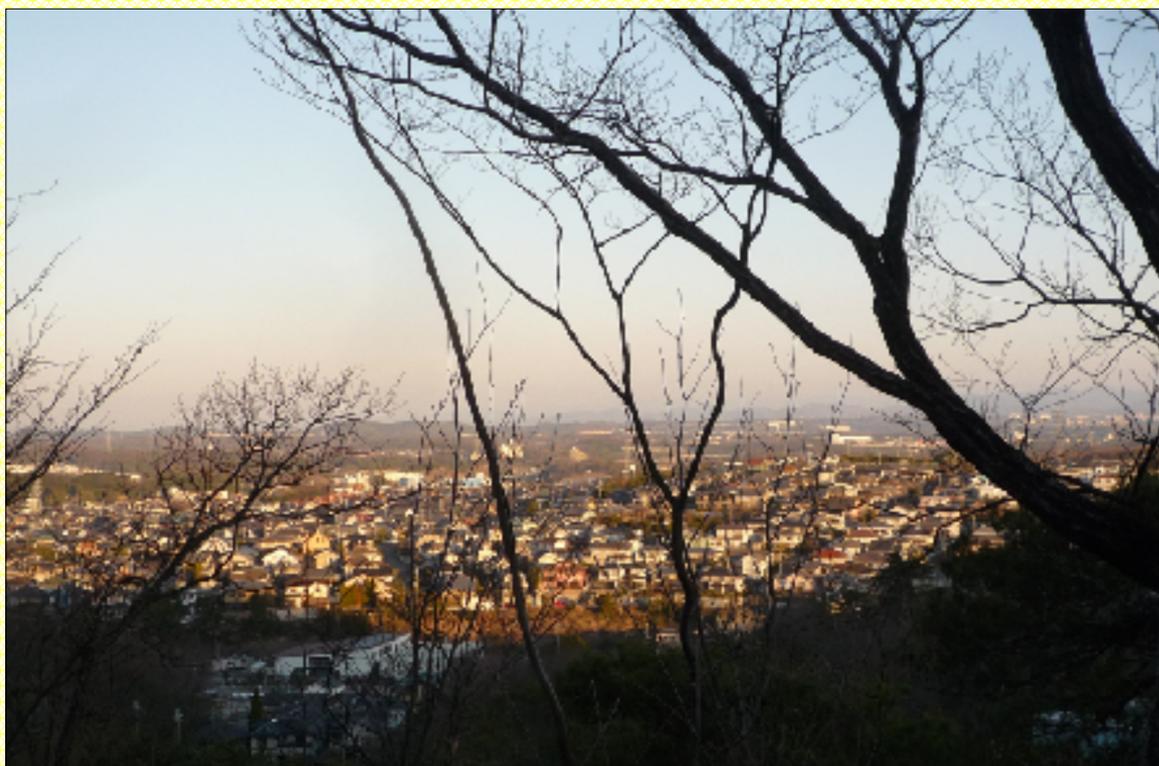


「誰もが安心していきいきと
生涯を暮らせる共生の町」をめざして

社協30年誌（後編）

北六甲台地区社協



丸山中腹からの北六甲台地区の近影

西宮市北六甲台地区社会福祉協議会

30年誌（後編）発行に当たって

波瀾に満ちた10年の歩み

会長 日高昭夫

30年誌の発行 社協設立後30年が経過し「30年誌・デジタル版」を発行します。発行済みの20年誌冊子版もデータとしてデジタル版に統合しました。

「30年誌（後編）」は設立21年目から30年迄の10年間の記録です。ちょうど私の会長在任期間と重なります。振り返れば「波瀾に満ちた10年」だったという感慨がひとしおです。（下記の「直近10年間の主な取組み」参照）



地域密着の独自性 21年目の2017年には「社協北六甲台分区」が「北六甲台地区社協」に移行し、地区社協として地域に密着した独自性が求められました。よりそいサポート、敬老お祝訪問、ぬくもりフェスタ等の地域に密着した独自の新たな取組みを実施しました。

コロナ禍のセイフティ機能 ところが2019年末から未曾有の災害・コロナ禍が発生し、活動自粛や感染対策に追われました。ただ活動自粛下でも社協のセイフティネット機能の維持に努め、対面総会開催、ボラセン窓口開催、独居高齢者の見守り電話訪問等の独自の活動を展開しました。

交流拠点の頓挫と自主的活動 また2019年4月以降、自治会ははじめ地域組織との連携による地域交流拠点づくりに着手しましたが、最終的に地域の合意に至らず4年をかけた取組みは頓挫しました。この取組みの反省から、自治会等の地縁組織への依存を修正し、地区社協の自主的活動と自立性強化に務める方向性を確認しました。2025年には念願の民生委員の地区社協推薦も実現しました。

ぬくもりフェスタの定着 そうした流れの集大成が2023年のぬくもりフェスタです。各事業部とボランティアセンターのフェスタに向けた自主的活動の活発化し、事業部合同の一体的イベント開催の相乗効果が発揮されました。3回の開催を通じて地区社協の「多世代交流イベント」として定着しています。

広報活動とイメージ強化 広報紙の年六回の全戸配布やホームページ、スライドショーの立上げ等の広報活動はどの地区にもひけをとらない充実ぶりです。

地区社協の幟・ベストの作成や愛唱歌「社協の詩」「ともだちつくろうの歌」や「ぬくもり」ロゴの制定等のイメージアップや組織としての一体感の充実もはかられました。

直近10年間の主な取組み

◆新たな取組み

分区20年誌、よりそいサポート、いきいき体操、敬老お祝訪問、チャリティバザー、休日ふれあい喫茶、ぬくもりフェスタ、地域活動支援制度、北六甲台文化祭の「社協地域交流広場」

◆イメージ強化と広報

幟（地区社協、ぬくもり会員募集、ふれあい喫茶）、ベスト、愛唱歌（地区社協の詩、ともだちつくろうの歌）、ぬくもりロゴ、デジタル化（グループライン、ホームページ立上げ、スライドショー）

◆コロナ禍の対応（活動自粛下のセイフティネット機能の維持）

対面総会の開催、ボラセン相談窓口の維持、ワクチン接種のカーボラ提供、独居高齢者の電話での安否確認

◆地域連携

福祉ネット設立と8年間の取組み、共生型地域交流拠点づくりと頓挫、北六甲台地区民生委員の地区社協推薦

地区社協としての地域密着の独自性（2017年～2019年）

平成29年度（2017）の活動

◇重点課題の取組み

①分区から**地区社協への移行**

- ・地区社協への移行に伴う組織整備（三役会議の設置、特別会計の設定）
- ②在宅ケアの支援（福祉フォーラムでの在宅ケアの講演、福祉ネット広報紙で「地域支援マップ」を作成し情報提供）
- ③よりそいサポートの推進（利用者10名、サポーター24名の登録、活動7件）

◇新たな課題の取組み

- ①**分区20年誌を発行**（1500部発行し、約1000部を地域住民や関係者に配布）
- ②ボランティアセンター運営によるいきいき体操の立上げ（27名の登録）

◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台10回771名・上山口11回351名、ふれあい交流会サンパレス106名、友だちつくろう12回260名、敬老のつどい150名、さくらまつりボランティア44名）北六甲台盆踊り敬老席、北六甲台文化祭出店
- ②研修活動（福祉講座2回66名、管外研修中止、ボランティア研修会2回57名）
- ③広報活動（ぬくもり年6回発行）
- ④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」46回）
- ⑤募金活動（日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動）は延113名参加。会員会費は32.6万円（法人10万円、個人22.6万円）
- ⑥ボランティアセンター相談窓口100回開設、ボランティア登録78名、カーボランティア利用者65名・利用回数133回、福祉学習派遣24名、ボランティア交流会35名、ボランティア研修会2回57名、山口ボラセン交流会13名、電話訪問2名81回、民生委員交流会15名の内民生委員9名、施設派遣延576名



平成30年度（2018）の活動

◇重点課題の取組み

①超高齢化に応じた事業見直し（「敬老のつどい」から「**敬老お祝訪問**」へ）

- ・元気なお年寄り対象の「集客イベント」から75歳以上のお年寄り対象の「よりそい訪問」への転換
- ・敬老訪問の配布408名、費用11万円は、前年度の敬老のつどい参加者150名、費用21万円と比べても参加者、費用を大幅改善
- ・見守りが必要な高齢者の増加に対応した地区社協による見守り活動の着手

- ②敬老お祝訪問の実施（訪問希望アンケート回答数488名対象者の62%、26名の役員による申込者408名308世帯への赤飯パック配布、回収済アンケート情報管理のための「個人情報管理規定」制定）

◇新たな課題の取組み

- ①自治会、福祉ネットと連携した認知症サポートの取組み
 - ・自治会、福祉ネットとの共催で初めての「認知症サポーター養成講座」を開催
 - ・福祉ネットを通じて「認知症サポート便利帳北六甲台地区版」を発行
- ②ボランティアセンター運営による**いきいき体操の立上げ**（27名の登録）
- ③北部地区初めての**認知症カフェ「にこにこ丸山カフェ」の立上げを支援**しました



◇既存事業の実施

- ①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回851名・上山口11回305名・北六甲台文化祭182名、ふれあい交流会サンパレス100名、友だちつくろう11回182名、敬老お祝訪問408名、さくらまつりボランティア45名）、北六甲台盆踊り敬老席
- ②研修活動（福祉講座3回74名、管外研修中止、ボランティア研修会2回35名）
- ③広報活動（ぬくもり年6回発行、ボラセンだより年2回発行）
- ④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」44回106名）
- ⑤民生委員交流会は開催できず

⑥募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。延116名参加。会員会費は31.6万円（法人8万円、個人23.6万円）

⑦ボランティアセンター99回開設、ボランティア登録78名、カーボランティア利用者70名・利用回数184回、北六甲台小学校福祉学習派遣2回38名、ボランティア交流会10名、ボランティア研修会2回35名、山口ボラセン交流会10名、電話訪問なし



【地域の動向】

・北部地区初めての認知症カフェ「にこにこ丸山カフェ」がコープこうべでスタートしました

◇重点課題の取組み

- ①地区社協としての地域密着の独自性の強化
 - ・地区社協の幟とベストを購入し活動時に使用

令和元年度(2019)の活動

- ・上山口4丁目の市営住宅の「山口町住宅自治会」に広報紙配布
- ・役員会議事を案件報告と意見交換に区分し役員会の意見交換が活発化



②ボランティアセンターの活動の活発化

- ・毎週木曜日に「いきいき体操きたろくボラセン」を開始（46回延600名参加）



◇新たな課題の取組み

- ①北六甲台地区の「共生型地域交流拠点」づくりに着手と福祉ネットを通じた具体化
- ②子どもたちの放課後の居場所問題の課題の検討に着手
- ③社協役員・竹田勝氏作詞作曲の「社協の詩」を制定

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台10回700名・上山口10回331名、ふれあい交流会サンパレス111名、友だちつくろう10回118名、敬老お祝訪問414名、さくらまつりボランティア45名）北六甲台盆踊り敬老席、北六甲台文化祭参加162名

②研修活動（福祉講座2回64名、管外研修中止、ボランティア研修会2回63名）

③広報活動（ぬくもり年6回発行）

④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」36回227名）

⑤募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。延115名参加。

会員会費は31.1万円（法人7.5万円、個人23.6万円）

⑥ボランティアセンター相談窓口91回開設、ボランティア登録78名、カーボランティア利用者49名・利用回数155回、福祉学習派遣56名、ボランティア交流会35名、ボランティア研修会2回63名、山口ボラセン交流会20名、電話訪問1名9回、いきいき体操北六ボラセン46回600名、民生委員交流会開催できず、施設派遣延441名

社協の詩

作詞・作曲 竹田 勝

1番

まだまだ若い 元気だと
思っていたら もう80
誰だ いつだと 振り返り
思い出せない 認知症
こんな身近な 出来事に
相談のります ボランティア
北六甲台地区社協 集います

2番

子育て支援に 要介護
障がい乗り越え 青い空
誰もが安心 生き生きと
生涯暮らせる 町づくり
募金活動 助け合う
優しさあふれる 幸せな
北六甲台地区社協 歌います

コロナ禍対応と共生型交流拠点づくりの頓挫（2020年～2022年）

令和2年度（2020）の活動

◇コロナ禍の地区社協活動

① 緊急事態宣言発令直前の総会開催

- ・2020年4月7日にコロナ感染対策の緊急事態宣言が発令
- ・4/25予定の第25回総会を緊急事態宣言発令直前の4/7役員会を切替えて開催
- ・来賓招待を控え代議員20名出席。座席配置、換気、消毒、マスク等の感染対策を講じて開催。



② コロナ禍の活動自粛

- ・市社協の自粛要請を受け2月中旬以降の約半年間、以下の基礎活動を中止した
友だちつくろう、ふれあい喫茶、ボランティアセンター活動、いきいき体操、青い空、福祉講座
- ・ふれあい交流会や初めて企画した交流研修会も今期中の開催を見送った

③ コロナ禍の新たな活動スタイルの模索

- ・緊急事態宣言解除を受け7月以降、感染対策に工夫を凝らして各活動が再開し、敬老お祝訪問も実施した
- ・募金事業部ではZOOMによるオンライン研修や会議が開催されコロナ禍での新たな活動スタイルを実施した

◇重点課題の取組み

① 共生型交流拠点づくり

- ・関係団体、役職、活動グループを対象とした20団体、役職で懇談会を開催
- ・地域の12の活動グループ参加の地域活動代表者懇談会を開催し新たなつながりが生れた
- ・第1回地区代表者会議が開催され、交流拠点のタタキ案作りの検討委員会を設置
- ・8回の検討委員会で具体化を検討。その後、拠点づくりの進め方を巡って協議が停滞。

② 地域に密着した独自性の強化

- ・敬老お祝訪問を通じた地区社協独自の見守り活動を進めた
- ・ふれあい喫茶、ともだちつくろうでの募金活動の実施等、事業部間の連携に着手

◇既存事業の実施

- #### ① 交流活動（ふれあい喫茶北六甲台5回235名・上山口6回148名、ふれあい交流会中止、友だちつくろう7回80名、敬老お祝訪問414名、さくらまつり中止でボランティア派遣もなし） 北六甲台盆踊り敬老席中止、北六甲台文化祭中止

② 研修活動（中止）

③ 広報活動（ぬくもり年5回発行）

④ 支援活動（障がい者児支援事業「青い空」32回72名）

- #### ⑤ 募金活動は日赤募金、共同募金、歳末助け合い運動、会員会費制を実施。延42名参加。 会員会費は30.9万円（法人7.5万円、個人23.4万円）

- #### ⑥ ボランティアセンター相談窓口91回開設、ボランティア登録62名、カーボランティア利用者17名・利用回数66回、福祉学習派遣中止、ボランティア交流会中止、ボランティア研修会中止、山口ボラセン交流会中止、電話訪問1名3回、いきいき体操北六ボラセン50回408名、民生委員交流会開催できず、施設派遣中止

令和3年度(2021)の活動

◇コロナ禍の地区社協活動～感染対策とフレイル対応のバランス～

①コロナ禍の活動自粛

- ・緊急事態宣言や蔓延防止措置の継続下で以下の基礎活動は中止を余儀なくされた
友だちつくろう、ふれあい喫茶、ボランティアセンターの活動、いきいき体操、青い空、福祉講座
- ・イベントのふれあい交流会や交流研修会も昨年に引続き開催を見送った

②コロナ禍でのフレイル対応を念頭に以下の最低限の地域福祉活動を維持した

- ・自治会とも連携しボラセンの相談窓口継続やワクチン接種会場へのカーボラを実施
- ・定期総会、役員会、執行委員会はコロナ禍でも感染対策を講じて開催

③コロナ禍での独居高齢者への見守り電話訪問の実施

- ・4月30日～5月2日に敬老訪問データを元に75歳以上の独居高齢者79名の電話訪問を実施
- ・コロナ禍の状況把握と困りごと相談を趣旨とした電話による声掛け
- ・専任三役を中心に分担困難な地域はボランティアコーディネータの協力を得て実施

◇重点課題の取組み

①共生型交流拠点づくりの協議の停滞

- ・二自治会の「自治会主体の拠点づくり」が提案され、最終的に撤回されたが協議は停滞した

②地区社協として地域密着の独自性を発揮

- ・コロナ禍での敬老お祝訪問がフレイルに対応活動としても意味があった
- ・福祉ネットから地区ネットへの移行を確認し、6年間の活動に幕を閉じた ※別紙資料編

◇新たな課題の取組み

①第9次地域福祉計画策定委員会の設置

- ・第9次地域福祉計画策定に向けて執行委員4名と市社協地区担当で策定委員会を設置

②Withコロナの環境下の独自の活動の展開

- ・コロナ禍でも住民の困りごと相談窓口としてボランティアセンター相談を継続
- ・山口センターのコロナワクチン接種会場までのカーボランティアの送迎を実施
- ・コロナ禍の連絡体制の円滑化に向けて、役員会、執行委員会、三役会、各事業部会でのグループラインを導入

②社協愛称を「ぬくもり」とし、ロゴも作成

ぬくもり

③社協公式ベストを作成。市社協から北六甲台地区社協の幟を購入。

④広報紙116号から役員による全戸配布体制の確立と外注印刷によるカラー化とコスト削減

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台4回197名・上山口3回84名、ふれあい交流会中止、友だちつくろう4回

②研修活動（福祉講座・史跡探訪25名、交流研修会中止、ボランティア研修会中止、コーディネーター研修会1回12名）

③広報活動（ぬくもり年6回発行・部会6回24名）

④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」29回96名）

⑤募金活動は、ふれあい喫茶・ともだちつくろう・いきいき体操で共同募金実施延22名参加。会員会費は30.3万円（法人7.5万円、個人22.8万円）

⑥ボランティアセンター相談窓口98回開設、ボランティア登録65名、カーボランティア利用者65名・利用回数77回、福祉学習派遣中止、ボランティア交流会中止、ボランティア研修会中止、山口ボラセン交流会中止、電話訪問1名45回、いきいき体操北六ボラセン46回355名、民生委員交流会不開催、施設派遣中止

令和4年度(2022)の活動

◇コロナ禍の収束と緩やかな活動の再開

- ・コロナ禍の鎮静化を受けて2022年の春頃から地区社協の活動も徐々に再開した

◇重点課題の取組み

①共生型交流拠点づくりの断念

- ・丸3年に及ぶ共生型交流拠点づくりを地域の合意形成のメドが立たず断念 ※別紙資料編

②認知症の地域支援の取組み

- ・北六甲台文化祭で3年ぶりに認知症サポーター養成講座(日高講師)を開催し50名受講
- ・にこにこ丸山カフェ(山口地区の認知症カフェ)について山口地区社協等と協議

③民生委員の一斉改選の対応

- ・山口地区民生委員推薦準備会委員として地区推薦の役割を担って積極的に選任に関わった
- ・選考過程で「地区推薦」と「現任民生委員推薦」との複数の選任手順が判明
- ・現任民生委員との軋轢がもたらす地域の混乱を回避するため最終的に社協推薦を断念

◇新たな課題の取組み

①第9次地域福祉計画の策定

- ・策定委員会タタキ案を事業部長ヒアリングや執行委員会フリートーキングで理解を深める

②各事業部の新たな活動の活発化

- ・ボランティアセンター(ぬくもりカフェ、出張相談、カーボラのグループライン活用)

- ・募金事業部(チャリティバザーの開始)
- ・研修部(あらたな運営スタイルによるスマホ講座の開催)
- ・地域交流部(市の所管部署と連携した「フレイル講座」の開催)

③コープこうべの移動店舗の停車地増設の協議

- ・2/16のコープこうべの閉店による買物の不便をカバーするため移動店舗の利便改善を協議
- ・その結果、移動店舗停車スポットの2カ所増設を確認

④組織強化に向けた制度変更

- ・区長の配置(丁目責任者の明確化、北六甲台と上山口両地区の執行委員配置のバランス)
- ・配布ボランティアの協力員配置
- ・会長代行の配置

◇既存事業の実施

- ①交流活動(ふれあい喫茶北六甲台11回681名・上山口10回249名、ふれあい交流会88名(3年ぶりの11月開催)、友だちつくろう12回233名、敬老お祝訪問415名、さくらウォーク16名、北六甲台盆踊り中止、北六甲台文化祭(展示とこども広場※喫茶は要請なし)

- ②研修活動(フレイル講座2回48名、認知症サポーター養成講座50名、スマホ勉強会17名)

- ③広報活動(ぬくもり年6回発行・部会6回29名)

- ④支援活動(障がい者児支援事業「青い空」46回138名)

- ⑤募金活動(日赤資金募金10名、日赤街頭募金28名、共同募金42名、歳末助け合い募金24名、初めてのチャリティバザー開催16名) 会員会費31.9万円(法人9万円、個人22.9万円)

- ⑥ボランティアセンター相談窓口95回開設、ボランティア登録72名、カーボランティア利用者51名・利用回数153回、福祉学習派遣中止、ボランティア交流会24名、ボランティア研修会8名、山口ボラセン交流会11名、電話訪問2名90回、いきいき体操北六ボラセン46回743名、民生委員交流会不開催、施設派遣中止



開かれたプラットフォームに向けて（2023年～2025年）

令和5年度（2023）の活動

◇基調 「多様性を包み込むプラットフォーム」

◇新たな課題の取組み

①初めての「ぬくもりフェスタ（社協感謝祭）」の開催

- ・コロナ禍で北六甲台文化祭の中止が続き社協活動の地域への紹介の場づくりを検討
- ・11月の勤労感謝の日に初めての「多世代交流イベント」を開催し176名の参加があった
- ・フェスタに向け各事業部の自主的活動と事業部合同の一体型イベントの相乗効果を発揮
- ・会員会費を「ぬくもり会員」に改称し、会員シールを発行。ぬくもり会員募集の幟作成。

②「地域活動支援制度」の導入

【趣旨】プラットホーム機能の具体化、活動支援による人材発掘と繋がり、地域福祉活動の発掘と活性化

【内容】広報の支援と活動費の助成、活動費は1件上限2万円の助成、事業予算年10万円以内

【実績】導入初年度は、不登校支援の「ほわっと」と認知症カフェ「丸山カフェ」の2件

③社協ホームページの公開



・6月に専用ソフトで独自にコンテンツを作成し自前のホームページを低コストで公開

・社協の固定サイトによる基本情報を初めてネット上に公開できた

・反面、更新者が限定されるシステム環境のため情報更新が不十分でアクセスは停滞

④社協関係者対象の交流研修会の開催

・4年ぶりにサンパレス六甲でスライドショー上映と食事交流会を開催（31名）

⑤初めての休日ふれあい喫茶の開催

- ・平日開催のふれあい喫茶の多世代参加を促す取組みとして初めて休日開催を実施
- ・5月（69人）、8月（45人）の2回の開催で子ども連れのファミリー層の参加を誘えた

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回630名・上山口11回250名、ふれあい交流会103名（10月開催）、友だちつくろう12回229名、敬老お祝訪問415名、さくらウォーク16名、北六甲台夏フェス（敬老席なし）、北六甲台秋フェス文化祭（こども広場出店）

②研修活動（スマホ教室11名、救急と救急車を学ぶ15名）

③広報活動（ぬくもり年6回発行・部会6回39名、6月ホームページ公開）

④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」46回187名）

⑤募金活動（日赤会費募金10名、日赤街頭募金15名、共同募金23名、歳末助け合い募金15名、フェスタ・チャリティバザー）会員会費33.25万円（法人11万円、個人22.25万円）

⑥ボランティアセンター相談窓口98回開設、ボランティア登録70名、カーボランティア利用者59名・利用回数239回、福祉学習派遣中止、ボランティア交流会24名、ボランティア研修会21名、山口ボラセン交流会11名、電話訪問2名170回、いきいき体操北六ボラセン49回823名、民生委員交流会不開催、施設派遣中止

【地域の動向】

- ・北六甲台で盆踊りが「夏フェス」と装いをあらためて平尻公園で4年ぶりに再開（飲酒OK）



和6年度 (2024) の活動

◇基調 「持続可能なプラットフォーム」

◇持続可能な組織に向けてのインフラ整備

①地区社協の人材と資金の強化

- ・北六小の放課後キッズルームのサポーター募集を通じた人材確保
- ・ぬくもりフェスタ等の社協イベントでのぬくもり会員募集活動の実施
- ・ノートPC2台とボラセン専用スマホの購入によるインフラ整備と会計収支バランスの改善

②ぬくもりフェスタの定着

- ・初回を上回る185名の参加
- ・ファミリー層の来場者増加で多世代交流が進捗

③地域活動支援制度の地域での普及

- ・にこにこ丸山カフェ1件の支援にとどまった

④ホームページ更新の仕組み強化

- ・地区社協のネット上の戸籍ともいえる基本情報の発信はできた
- ・更新の仕組みづくりは対応できずHP機能の強化も進んでいない

⑤役員会構成メンバーの見直し

- ・執行部の役員会出席を会長、会長代行、事務局長に限定し事業部長の会議出席負担を軽減
- ・役員会での役員の発言が増え意見交換が活発化

⑥北六甲台自治会との安心プラザ防水工事、自治会館使用料、ボラセン移転の協議

- ・安心プラザ防水工事は来期に予算措置を行い来期早々の実施を確認（2025年6月完了）
- ・会館使用料は関係団体適用の所定使用料の半額を元に年間使用時間試算の定額払いとし、安心プラザ使用料は建設時の経過から無償とすることで合意
- ・ボラセンのコミセン周辺への移転については共通理解があったが、準備期間も含めた移転のタイミングについて次期自治会執行部と再協議することで合意

◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回652名・上山口11回282名、ふれあい交流会103名（6月開催）、友だちつくろう12回168名、敬老お祝訪問415名、さくらまつり30名、北六甲台夏フェス（敬老席なし）、北六甲台秋フェス文化祭（「社協地域交流広場」出店）

②研修活動 スマホ教室11名、救急と救急車を学ぶ15名、3/29に8年ぶりに管外研修（姫路）を実施

③広報活動（ぬくもり年6回発行・部会6回、地区社協ガイドの発行）

④支援活動（障がい者児支援事業「青い空」45回172名）

⑤募金活動（日赤資金募金49名6.3万円、共同募金58名4.6万円、共同募金23名、歳末助け合い募金29名5.3万円、フェスタ・チャリティバザー）会員会費32万円（法人10万円、個人22万円）

⑥ボランティアセンター相談窓口99回開設、ボランティア登録75名、カーボランティア利用者60名・利用回数239回、福祉学習派遣24名、ボランティア交流会27名、ボランティア研修会21名、山口ボラセン交流会21名、電話訪問1名64回、いきいき体操北六ボラセン43回911名、民生委員交流会1回14名、施設派遣中止



令和7年度 (2025) の活動

◇基調「次世代共存の地域社会の取組み」

①少子化対応と公立中学校の”部活動の地域移行”等の放課後の子どもの居場所づくりの検討

②高齢化対応と次世代共存の地域社会

- ・高齢世代、現役世代、子ども次世代のそれぞれの世代の課題の対応
- ・多世代交流から一歩踏み込んだ”次世代共存”の地域社会の取組み

◇重点課題の取組み

①持続可能な社協組織に向けての見直し

- ・持続可能な活動に向けた点検（募金事業のスリム化と会員事業部への改称）
- ・会計収支のバランス確保に向けた収支の洗い直し（バザー収益を地区社協収入に移管、ふれあい喫茶、ぬくもりカフェの有料化の検討）

②ぬくもりフェスタの反省点

- ・三連休中日の開催で前年を25名下回る160名の参加
- ・2階会場の集客問題、今後の自治会館使用による会場拡大とイベントの多様化、ぬくもり会員記念品の在り方等の反省点

③ボラセンの北六甲台中央部への移転協議の確認

- ・ボラセン移転の移転先、移転時期等の北六甲台自治会等の地域関係者との協議
- ・北六甲台自治会三役の「今期中の移転は考えない」旨の意向表明で当面の移転を断念

④来期新役員体制に向けた準備

- ・12月の三役による役員選考委員会の早期開催と人選の協議
- ・三役体制の若返りを目指した人選整備
- ・役員の仕事部長、地区長への積極登用による人材育成と役割分担による執行体制の強化

⑤8月のホームページの抜本的リニューアル

- ・事業者への業務委託でシステムの刷新（WordPress導入、更新実務の簡素化、広報紙・20年誌のデジタル閲覧、アンケート機能、役員掲示板の導入）

⑥地区社協30年誌のWebサイト公開

- ・事業者への業務委託でシステムの刷新（WordPress導入、更新実務の簡素化、広報紙・20年誌のデジタル閲覧、アンケート機能、役員掲示板の導入）



◇既存事業の実施

①交流活動（ふれあい喫茶北六甲台11回652名・上山口11回

282名※ふれあい喫茶の幟2本作製、ふれあい交流会103名（6月開催）、友だちつくろう12回168名※ともだちつくろうの歌作成、敬老お祝訪問415名、さくらまつり30名、北六甲台夏フェス（敬老席なし）、北六甲台秋フェス文化祭（「社協地域交流広場」出店）

②研修活動 3/29、8年ぶりに管外研修（姫路）を実施

③広報活動 ぬくもり年4回発行・部会4回、Web編集会議2回

④支援活動 障がい者児支援事業「青い空」45回172名

⑤募金活動 日赤会員募金49名6.3万円、共同募金58名4.6万円、共同募金23名、歳末助け合い募金29名5.3万円、フェスタ・チャリティバザー）会員会費32万円（法人10万円、個人22万円）

⑥ボランティアセンター 相談窓口99回開設、ボランティア登録75名、カーボランティア利用者

60名・利用回数239回、福祉学習派遣24名、ボランティア交流会27名、ボランティア研修会21名、山口ボラセン交流会21名、電話訪問1名64回、いきいき体操北六ボラセン43回911名、民生委員交流会1回14名、施設派遣中止（山口苑のみ再開）。今期から山口児童センター長の要請に応じて、センターの託児ボランティアの取組みを実施。今期7回22人の参加（1月迄）。



ともだちつくろうの歌

1番

毎月第4金曜日
ともだちつくろう 楽しいな
赤ちゃん、2歳児、3歳児
みんな集まれ コミセンに
今日は七夕 笹祭り
織姫 彦星 天の川
キラキラ星を飾ります

作詞・作曲 竹田 勝

2番

社協の子育て相談日
受付済ませて仲間入り
ボールに積み木におままごと
おもちゃ箱はいっぱいだ
今日はサンタのプレゼント
赤い靴下 暖かい
クリスマスツリーに灯りが灯る



1990年頃の北六甲台の風景（北六甲台4丁目宗村泰明さん提供）

あしがき

30年誌デジタルデータ版のWebサイト公開

「社協30年誌」は3部構成です。「設立から20年間の『前編』」「21年から30年迄の『後編』」「資料編」の3部です。前編の内容は本文に資料を添えて2017年4月に「北六甲台分区20年の歩み」と題した冊子として発行しました。

2025年8月にリニューアルされたWebサイトで広報紙や30年誌がデジタルデータとして保存閲覧が可能になりました。そこで21年以降の10年間の記録を合わせて「30年誌」として費用負担のないデジタル版として発信することにしました。

後半10年の「後編」は「資料」も含めて既に記述のテンプレートがあり、内容を最もよく把握している立場にある会長の責任で執筆し、執行委員の責了を得て公開しました。

（日高・記）

友だちつくろうのクリスマス会



ふれあい交流会

北六甲台地区社協 30年誌(後編)

西宮市北六甲台地区社会福祉協議会